

# 「不易流行」

よき伝統を守りながら(不易)

進歩に目を閉ざさないこと(流行)によって、

「理想」を創造する

『楽しい町は  
みんなでつくる!』

新年を迎えるにあたって、マスコミからインタビューを受ける機会がありました。その中の項目の一つに『「3000人の楽しい町」をめざした町の活性化にチャレンジしているが町民の意識は変わったのか?』というものがありました。町長に就任して1年5ヶ月しか経っていないので、限界はあると思いますが、情報公開を積極的に行ってきたと自負しています。

まず、庁舎整備や事業見直しに関する住民説明会の開催、若手プロジェクトチームによる庁舎整備に関するワークショップの実施、議会のインターネット放送の開始等です。

また、7月には全職員で全集落に出かけて、集落のことを語り合う「集落総合点検」を実施しました。約600名の町民の皆さんに参加いただき、200項目以上の意見・要望を頂戴しました。その後、中学生



以上の皆さんにまちづくりについてのアンケート調査を実施し、約1800人の方から回答をいただき、回収率は7割近くになります。

私は、町民の皆さんのまちづくりに対する意識は少しずつではありますが、変わってきていると思います。具体的なものとして、「こうふくのたより」「まなびや」「こうふくらしっく」「旧明倫小学校での下蚊屋荒神神楽公演」など、新たなまちづくりの自主的な動きを始め、住民と事業者と行政をつなぐ中間支援組織としてのNPO法人設立の動き、観光協会による山の日ロックフェスティバルや十七夜前夜祭イベントも生まれてきました。

また、町議会を傍聴される方も増えてきましたし、町内の団体からの陳情も議会に提出されるようになりました。中学生議会も2年連続で開催され、将来が楽しみになってきました。今後とも、「楽しい町を自分たちで作るんだ。」という町民のみなさんを応援していきたいと思えます。

# 「3000人の楽しい町」 プロジェクトチーム報告

新年あけましておめでとうございます。平成30年となり、新年度からは新庁舎建設に向けた本格的な事業がいよいよスタートします。

今年度のプロジェクトチームの任期は、残り3か月。「住民の皆様にとって使いやすい庁舎とは何か?」をテーマに続けてきた活動も、いよいよ大詰めです。

そこで今回は、ゴールに向けた目標の再確認も兼ねて、これまでのプロジェクトチームの活動を振り返ってみようと思います。

平成29年は、住民参加型のワークショップを3回、職員向けのを1回と、計4回にわたって開催し、新しい庁舎に求めること・ものについて話し合ってきました。

現在の庁舎を利用する上で不便なこと、新しい庁舎にあつたらいいなと思う施設や設備、様々な利用方法に至るまで、あらゆる可能性について意見を出し合っていたきました。

その中で特に関心の高かったのは、①誰もが使える多目的スペース、②カフェ・食堂、③大山の景観を活かした空間・ギャラリーの3点です。前回のワークショップでは、

これらをうまく新庁舎の中に組み込むためには何が必要か、どういった使い方ができるのか、すなわち新庁舎の「コンセプトイメージ」について考えを深め、参加者の皆様で共有することを目指しました。

そして先日の12月議会中に開かれた庁舎等公共施設建設調査特別委員会で、皆様の声と想いをまとめた提案書(案)をお示しし、ご意見をいただいたところでした。

今後は、関心の高かった3点を中心に、その他にも頂いたご意見を参考に、新庁舎の設計にその思いが一つでも多く実現するよう、3月末に向けて総括、最終提案を行っていく予定です。あとわずかの期間ですが、多くの住民の方に愛され、親しまれ、「できてよかった」と思っていただけの庁舎を目標に尽力します。

プロジェクトチームは、今年も、「たぐさんの小さな意見を聴く」を合言葉にがんばります! 叱咤激励を、よろしくお願いいたします。

動画で町報こうふ!



以前の報告会の様子は動画サイトyoutubeでご覧いただけます。